

スピードスケート列伝3 「パーフェクト・ゴールドメダリスト」

史上最強のスポーツマンは誰か・・・？

カールルイスか？水泳のマイケルフェルプス・・・サッカーのマラドーナ、バスケットのマイケルジョーダン・・・

私はこの選手の名前も外すことはできないと思っている。その選手の前にも後にも、彼を越える偉業はなされてはいないのだ。

1980年、テレビ中継で「金色(こんじき)のユニフォーム」に私は釘付けとなった！・・・

★ 「超完全優勝」

陸上で考えると、ありえない話だ。

スケート競技500m～10000mの全種目を制覇という「奇跡」が1980年のレイクプラシッド五輪で起こってしまったのだ。

そのスーパースターの名は「エリック・ハイデン」。

毎日のように各種目を勝ち続ける21歳の超新星に会場は騒然とした。

★二度目の五輪で

陸上と異なってスケートは大会のスケジュールも、競技の嗜好も別物ではある。

それでも陸上200mスプリンターが1500mも勝ってしまうくらいの隔たりはあるだろう。そもそも、「出たいから」・・・と出場できるものでもない。全米選手権で3位以内であり、世界ランカーでなければ出られないのだから。

ハイデンがスケートを始めたのは3歳。父親が熱心なスポーツ信仰者。本格的な競技は高校生から。しかし早々に世界ジュニアスプリントで2位。

高校生で1976年インスブルック五輪に出場したものの、ジュニア選手が通用するほどソビエトやカナダの選手は甘くなかった。

ハイデンは天才型と思われがちだが、実は驚異的な練習量をこなす努力型だ。

(正確には天才が努力をし尽くした・・・というところか)

コーチは1972年札幌五輪で女子1500m金メダリスト。

二人が選択したトレーニング法は、前例が無いようなものだった。

油を塗った床で身体をチューブに固定して左右に滑る・・・という現在の清水選手達も用いているトレーニングであった。しかし、そのころは何の前例も根拠データもない「根性練習」であったため、確信はなかったという。

しかしハイデンの大腿部は74cmにも膨れ上がり、持久力も飛躍的にアップした。

1977年、1979年の世界選手権では「スプリント」「総合」の完全優勝を成し遂げた。全世界はハイデンに「五輪全種目制覇」のミラクルを期待した。

★ 神も味方した男

500mと10000mの世界記録は敵国ソビエトの選手が持っている。当然アメリカ人をヒーローにするわけにはいかない。選手としても、国家としても。

しかし運もハイデンに味方した。

強敵ソビエト選手の相次ぐ作戦ミスに助けられ、勝ち進んでいく。

最後の10000mは強敵・ソ連のラスキン（世界記録保持者）だ。

ラスキンは自らの世界記録を上回るペースで、ハイデンにゆさぶりをかけた。

しかしハイデンはコーチとともに「自己ペースの死守」だった。

・ ・ 結果、前半のオーバーペースがたたってラスキンは失速・ ・ ・

優勝はハイデンに転がり込んだ。

しかも大幅世界記録の更新というおまけつき。

これで歴史上類を見ない「五輪スケート界の奇跡」は達成された。

「スケート全種目、同一大会同時金メダル！」

もちろんその後も、この神がかり的な偉業には誰も成功していない。・ ・ ・というより、通常はエントリーしないだろう。みな、一つの金メダルを取るのに命がけなのだから・ ・ ・

しかし、ハイデンの身体はすでに限界を超えていた。ストレスと疲労で身体はとっくに悲鳴を上げ、もはや膝を曲げるのすら苦痛となっていたという後日談があった。

当事、アフガニスタン問題で米ソはゆれていた。半年後のモスク五輪ではボイコットとう大事件に発展するのは周知の事実。金色のユニフォームに未を包むアメリカのヒーローはソビエトの強豪を下したのだ。

全米が沸いた。スポーツの世界を越えたリアルヒーローの誕生となった。

★ 「金メダルが最終目的ではない」

超人・エリックはこの後、あっさりとスケートを引退してしまう。

大学に戻り、整形外科の道を歩んだ。

何億円ものコマーシャルの誘いも断り続けた。

「金メダルの恩恵で金を稼ぐ気はない」と言い放ったのだ。

・ ・ ・ ・ 金メダリストがその後どういう道を選択するかは、当事者それぞれだと思うが、ハイデンはまた新しいスタイルを開拓したといえる。

しかし、この超人は別のスポーツに進出していく。

新たに目を向けたのは自転車ロードレース。

1985年には全米プロ自転車選手権の初代覇者となったのだ。

選手として引退後のインタビューで、ハイデンはこう語った。

「金メダルいくつ取ったという結果よりも、そこまでの過程が重要だ。いかに努力をして、大会でベストを尽くしたか・・・それが大切さ」

ああ、五輪選手も、私のような一般の選手も、目指すべき競技姿勢は同じなのか・・・と感心してしまった。

神に選ばれし者のみが言える言葉。

これほどのスケート選手は、もう二度と現れないだろう。

37回 のもと歯科